

エクアドル TR4感染疑いのバナナを除去

[FreshPlaza](#) 2025年10月20日

これまでにTR4の感染が疑われるバナナの木1,235本を除去

エクアドルでは、当局がフザリウム菌熱帯株4(TR4)によるものと考えている事象が9月上旬にエルオロ州(バナナの主要産地)で発生したことを受けて、引き続き高い警戒態勢が敷かれている。公式な確認を待つ間、当局は隣接する農園への拡大の可能性を回避するため植物防疫対策を強化している。

10月16日にグアヤキル市で開催されたバナナ技術会議(Banana Time)において、動植物衛生規制管理庁(Agrocalidad)の技術者であるカルロス・ムエンテス氏がこの事態への対応について説明した。それによると、現在までに合計3,588平方メートルに及ぶ8カ所の発生地点から感染が疑われる植物1,235本を除去し、処分した。振り返って見ると、9月22日にダニロ・パラシオス農畜水産大臣が発表した時点では、発生件数は1件で感染が疑われる植物も1本であるとされていた。

ムエンテス氏は、監視区域において40日間新たな発生が確認されていないことは好ましいとする一方で、感染が疑われる農場で基本的な植物防疫対策が欠如していたことは遺憾であるとして、予防措置を遵守している農場がわずか5%しかないという州内の現実を指摘した。

同氏は「監視と研修が功を奏し、ラルストニア属の細菌(モコ病)とは異なる維管束の病害の兆候を示す植物を9月上旬に特定した。確認を待たず、定められた手順に従って即座に対応した」と述べた。

この事態に対応するため、多数の州から招集された50名の技術者チームに加え、複数の専門家チーム、4台の移動用車両、複数のドローン、消毒場を含む管理用隔離システムが投入された。発生が疑われる地点の周囲には、半径1キロメートル及び5キロメートルの監視区域が設定された。

現時点までに、ドローンによる上空の飛行が88回実施され、1,188ヘクタールをカバーして1万2,168枚の画像が撮影された。すべての画像は「Estamos Alerta(「警戒中」の意味)」と呼ばれる植物病害監視・分析プラットフォーム上で解析され、フザリウム萎凋病との関連性や、疑わしい植物の現地確認の必要性が判断された。

この期間中、7つの農場の245エーカーに対して4回の追加植物防疫検査が実施されたが、すべての検査結果は陰性であった。(1エーカー=約0.4ヘクタール)

この事例は、州内における植物防疫対策の強化の重要性を浮き彫りにするとともに、この国の主要な農産物輸出産業の1つを守る上で、予防的監視が果たす役割の重要性を強調するものである。

出典: eluniverso.com